

事業の背景・目的

・実績報告書（別紙10－3）を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載（300文字以内）
里山、干潟、海・河川、海岸マツ林の自然環境の現状について調査データを蓄積し、福津市の自然再生に向けた保全の仕組みを提案する。ふくつ環境トラストでの協議や、ふくつ環境シンポジウム、環境学習ワークショップ、SNSによる情報発信などに取り組み、ふくつ環境トラストの繋がりを活用して、生物多様性について知り、保全する機会を提供する。福津市生物多様性地域戦略（生物多様性ふくつプラン）を多主体協働の取り組みによって生物多様性保全の実践に繋ぎ、事業終了時に自然再生事業の全体構想（自然再生事業案）の骨子を作成する。

事業の内容

・実績報告書（別紙10－3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業①【福津市の生物の生育・生息状況の調査及びモニタリングと保全】レーザー測量により干潟における土砂の堆積状況を計測した。里山では地域住民との協働により、未利用資源の循環の仕組み構築を行った。海岸マツ林では、実生の生息環境について評価を行った。市内の鳥類ネットワークについてGISを用いた解析から保全が必要な樹林地について評価を行った。

事業②【多主体協働の環境保全・生物多様性保全の仕組みづくり】ふくつ環境シンポジウムでは、福津市内の環境保全団体だけでなく、中・高生が参加し、国内外における環境保全とまちづくりについて情報共有を行った。「ふくつ生き物カード」を用いたワークショップでは、子どもから大人まで市内の自然環境、生物、保全の取り組みについて学ぶ機会を提供した。専門家や市内で活動する環境保全団体の方を講師として「ふくつの自然を学ぶ連続講座」を河川、里山、干潟、海岸マツ林において実施し、市民に自然環境の現状、保全の現状について知る機会を提供した。ふくつ環境トラスト会議では、市民、行政、教育研究機関によって活発な議論が行われ、生物多様性保全の今後の方針を決定した。

得られた成果

・実績報告書（別紙10－3）を基に、事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）
津屋崎干潟における土砂の堆積状況調査については今年継続して測量を行い、土砂動態を評価する。周辺山林からの土砂供給について各関係主体と協議し、津屋崎干潟における自然再生に取り組む。また、里山環境においては、未利用となっている森林の密度管理、天然更新を図り、適切な森林マネジメントを行う。また伐採した自然資源を資金化する仕組みを地域住民と協働で構築する。過去の自然再生により保全の仕組みが構築されている河川、海岸マツ林においては、継続的に活動が実施できるよう、人材・人員を確保する。作成した自然再生全体構想案骨子を基に、自然再生構想を策定し、自然再生協議会の設立を行う。また、継続してふくつ環境シンポジウムやふくつ環境トラスト会議、ふくつの自然を学ぶ連続講座を開催し、福津市の生物多様性の現状や課題、保全状況について市民と共有しながら、さらなる組織間のつながりの強化を行う。